様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １８ 日現在

機関番号：１１５０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ０１４９５

研究課題名（和文）千島列島の近現代史：日露協働の歴史叙述に向けて

研究課題名（英文）Modern History of the Kuril Islands: Toward a Historical Narrative of Russo-Japanese Cooperation

研究代表者
天野　尚樹（Amano, Naoki）

山形大学・人文社会科学部・教授

研究者番号：９０６４７７４４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,400,000円

研究成果の概要（和文）：　千島列島の近現代史研究を実施した。ロシアでの現地調査によって未利用の文書館史料を利用しての研究が本来の目的であったが、コロナ禍とロシア・ウクライナ戦争の影響で渡航が一度もかなわなかった。代替作業として、入手可能な国内外の資料収集、手記等の未公刊資料の整備、奄美群島史との比較分析など新機軸も含めた十分な成果をあげることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　千島列島近現代史は、とりわけ戦後史について、北方領土問題によって現地が閉ざされていたこともあり、国際的に研究史上の空白となっている。この空白を埋め、領土問題によって閉ざされ、あるいは歪められてきた歴史像を明らかにすることは、学術的な意義のみならず、動かすことのできない隣接国との将来的な友好関係の基盤構築としても意義あるものと考える。この研究成果は、学術論文のみならず、一般書での商業出版を準備している。

研究成果の概要（英文）：　I conducted research on the modern and contemporary history of the Kuril Islands. The original purpose of this research was to make use of archival materials not yet available through field research in Russia, but the Corona disaster and the Russo-Ukrainian War prevented any travel to Russia. As an alternative, I was able to collect available materials in Japan and abroad, compile unpublished materials such as memoirs, and conduct a comparative analysis with the history of the Amami Islands, which included new and innovative results.

研究分野：歴史学

キーワード：千島列島　北方領土問題　日露関係　戦後史　近現代史

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

本研究は、日露関係の焦点である北方領土・千島列島（以下、千島列島）の近現代史を日露の歴史家の協働によって叙述しようとする試みである。領土問題として依然として係争中である千島列島の近現代史は、日本人の手によってもロシア人の手によっても、入手しやすいかたちで出版されてはおらず、また研究水準も低いままである。日露双方の国民が現場の歴史を知らないままで、中央政府間で外交交渉が続けられている。こうした状況は、領土問題がどのようなかたちで解決されたとしても、事実上未知の地で新たな歴史がはじまることになる。日露の歴史家が協働で千島列島史を叙述することは、隣国同士の良好な未来のための基盤構築として喫緊の課題である。

このような国家間関係を反映して、千島列島の近現代史は外交問題に収斂され、先行研究の中心は領土問題をめぐる政府間交渉史が中心となった。地域史として千島列島を叙述する試みは少ない。そうしたなかで、先駆的な試みが 2 点ある。1 つは、高倉新一郎『千島概史』（南方同胞援護会、1960 年）である。商業出版ではなく、また概説的なものではあるが、特筆すべきは全文がロシア語に訳されていることである。入手の困難さから必ずしもよく利用されているわけではないが、日本人の叙述による千島通史でロシア人が読むことのできる現時点で唯一のものである。2 つ目が、John. J. Stephan, The Kuril Islands: Russo-Japanese Frontier in the Pacific (Oxford: Clarendon Press, 1974) である。本格的な学術的通史としては世界初の記念碑的著作といってよい。ロシアでは 1990 年に、サハリンで出版されていた専門誌に露訳が掲載されたが、邦訳は出ていない。大変すぐれた内容ながら、一般的な日本人やロシア人が手にできるものではない。

２．研究の目的

本研究の当初の目的は、千島列島（いわゆる北方領土を含む）の近現代史を日露の研究者の協働によって叙述することにあった。日露関係の最大の懸案である北方領土問題は、現場についての歴史的基礎知識すら欠如したまま中央政府間で交渉が進められている。こうした状況は、領土問題解決のためにも、また解決後の日露関係の未来にとっても、重大な欠落である。そこで研究代表者は、サハリン側からの千島列島近現代通史編纂の共編者・執筆者としての協力依頼を引き受け、日露協働叙述の推進にあたることを決意した。

しかし、外部要因によって研究の方向性は根本的に崩された。まず、2020 年のロシア連邦憲法改正により、係争中の国境地帯の歴史研究を相手国の研究者と協働すると「外国の手先」として処罰を受けるおそれがロシア側研究者に発生した。そのせいで、ロシア側研究者から共同研究の断念が伝えられた。また、コロナ禍とロシア・ウクライナ戦争の発生により、ロシア渡航が不可能となり、現地での資料収集が不可能になった。

そのなかで、ロシア渡航をせずにおこなえる資料収集、とりわけ国内外の公刊資料の体系的整備と、体験者の手記等の未公刊資料の整理を中心に研究基盤の整備を進めることを目指した。また、研究のウイングを広げ、戦争と境界変動を経験した他の島嶼部との比較史分析の手法を開発することを研究上の最重要の目的として事業を推進することとした。

３．研究の方法

研究期間中、ロシア、とりわけ千島列島を管轄するサハリン州では、重要な関連資料集の編纂と出版が相次いだ。しかし、コロナ禍での国際郵便の途絶が重大な障害となった。しかし、これまで培ってきた現地研究者のネットワークを活かし、かれらの献身的な協力のおかげで、印刷時に作成する電子ファイルでそれらの資料集をすべて提供してもらうことができた。

日本国内では、体験者の聞き取り、手記等未公刊資料の収集と復刻を中心に資料基盤の整備をおこなった。

これらの資料を活かし、日本側とソ連・ロシア側双方から千島列島近現代史を叙述することになる。従来の研究が中央政府間の外交史・国境問題交渉史が中心であったことに対して、地域の社会史、住民の生活や意識の分析に焦点を当てる分析を心がけた。上述の収集資料に加え、ロシアでウェブ公開されているソ連時代の地方紙も重要な情報源となった。

比較史分析にあたっては、ボーダー・スタディーズの分野で近年注目されているファントム・ボーダー理論に、国内植民地論を応用することによって歴史研究に適用可能な分析手法を開発し、比較分析研究をおこなった。ファントム・ボーダー理論は、境界地域に関する住民の意識に歴史的事象がどのように影響するかを分析するための方法である。歴史研究と親和性は高いものの、あくまでも共時的な現状分析を主眼としている。そこで、国内の辺境地域の歴史過程を分析する国内植民地論を応用して、動態的・通時的分析が可能な分析手法に改良した。

４．研究成果

収集した資料と開発した分析手法を用いた研究成果として、研究期間中に学術論文 6 本（内、査読有り 3、英語 2、ロシア語 1)、口頭報告 4 回（内、英語 1、ロシア語 1）を発表することができた。

特筆すべき成果として、“Sakhalin / Karafuto,” in *Oxford Research Encyclopedia of Asian History* がまずあげられる。これは、オックスフォード大学出版会が運営する世界最大のオンライン研究入門であり、同事典への執筆招待は、千島列島を含むサハリン州研究において世界的地位にあることを意味している。日ロ間の境界領域であるサハリン島・千島研究において歴史から現状まで幅広く、かつ複数言語で研究・発表をおこなってきた成果である。

地域の通史的叙述をおこなうには、歴史研究にとどまらず、現状分析もおこなう必要がある。そのため、狭義の歴史学的手法に加えて、ボーダースタディーズの手法も取り入れて、歴史学と現状分析をつなぐ分析手法を開発した。その成果は、“Exorcising Phantoms: Development at Border Islands in Northeast Asia” として国際シンポジウムと出版により英語でまず発表された。国際的なボーダースタディーズの研究コミュニティとの議論を踏まえた成果発表となった。これは、「島を規律する：境界をめぐる地政治」（岩下明裕編著『北東アジアの地政治：米中日露のパワーゲームを超えて』北海道大学出版会）として日本語でも商業出版され、学界だけでなく広く社会にその成果を還元することができた。

コロナ禍と入れ替わるように勃発したロシア・ウクライナ戦争の影響で、ロシアでの現地調査、ロシア人との共同研究を前提とした本研究は根本から方針を変更せざるを得なかった。しかし、コロナ禍で一般化・活発化したオンライン上の情報交換・コミュニケーションのおかげで、不可能な現地調査を最低限おぎなう資料収集と、ロシア人との研究交流をおこなうこともできた。ロシアの未公刊資料、日本では入手不可能な公刊資料を用いて執筆した「日ソ戦争樺太戦：八方山＝ハラミトーギのソ連兵」（日ソ戦争史研究会編『日ソ戦争史の研究』勉誠出版）は、ロシア人研究者の協力なくしては不可能な成果である。その成果は、“Что такое Харамитоги? Как исследовать и понять Советско-японской войне”として口頭報告および出版もされ、ロシアの歴史学界に還元することができた。

現地調査ができなかったことは確かに大きな痛手であった。しかし、ロシア人研究者の協力で入手し得た資料や、これまで蓄積してきた資料を使い、むしろ腰を落ち着けて、分析手法を開発しながら歴史研究と現状分析に取り組むことができた。また、その成果を国際的に発表し、サハリン州研究においては世界的に一定の地位を確立することもできた。本研究は、当初の計画とは異なる生格とはなったものの、十分な成果をあげることができたと考える。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 Naoki AMANO	４．巻 —
２．論文標題 Sakhalin/Karafuto	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Oxford Research Encyclopedia	６．最初と最後の頁 —
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/acrefore/978019027772	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

１．著者名 天野尚樹	４．巻 13
２．論文標題 「［書評論文］林忠行著『チェコスロヴァキア軍団：ある義勇軍をめぐる世界史』」	５．発行年 2023年
３．雑誌名 境界研究	６．最初と最後の頁 179-186
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14943/jbr.13.179	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

１．著者名 天野尚樹	４．巻 97
２．論文標題 ニコライ・ヴィシネフスキー著『樺太における日ソ戦争の終結』	５．発行年 2020年
３．雑誌名 神奈川大学評論	６．最初と最後の頁 123-123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　3件／うち国際学会　2件）

１．発表者名 Наоки Амано
２．発表標題 Что такое Харамитоги? Как исследовать и понять Советско-японскую войну 1945 г. на Карафуто
３．学会等名 Международная научная конференция Третьи краеведческие чтения（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 天野尚樹
２．発表標題 「引きちぎられた」南の境界：日本と沖縄と奄美のあいだ
３．学会等名 スラブ・ユーラシア研究センター公募研究プロジェクト型セミナー「国境の変動・変容と人びとの意識変容・行動変容－南方史と北方史の邂逅」（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Naoki Amano
２．発表標題 Exorcising Phantoms: Development of the Border Islands in Northeast Asia
３．学会等名 Northeast Asia: Pitfalls and Prospects, Past and Present（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

〔図書〕　計5件

１．著者名 池 炫周 直美、エドワード・ボイル編	４．発行年 2022年
２．出版社 北海道大学出版会	５．総ページ数 190
３．書名 日本の境界：国家と人びとの相克	

１．著者名 Akihiro Iwashita et. al., eds.	４．発行年 2022年
２．出版社 Routledge	５．総ページ数 240
３．書名 Geo-Politics in Northeast Asia	

１．著者名 日ソ戦争史研究会編	４．発行年 2023年
２．出版社 勉誠出版	５．総ページ数 482
３．書名 日ソ戦争史の研究	

１．著者名 原暉之ほか編	４．発行年 2023年
２．出版社 北海道大学出版会	５．総ページ数 456
３．書名 帝国日本の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太	

１．著者名 岩下明裕編著	４．発行年 2021年
２．出版社 北海道大学出版会	５．総ページ数 300
３．書名 北東アジアの地政治：米中日ロのパワーゲームを超えて	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関